



■Topics –自治体取組事例のご紹介–

鉄道と連携したシェアサイクルの取組【長野県上田市】

～「鉄道定期券×シェアサイクル」による、便利で使いたくなる公共交通の仕組み～

本事例のポイント

- ・ 鉄道とシェアサイクルの連携により、公共交通の利便性向上や利用促進に取り組んでいる事例。
- ・ 鉄道の通勤定期券利用者がお得にシェアサイクルを利用できるキャンペーンを実施。社会実験を通じて市民の声を把握したうえで、料金設定やポート配置等に声を反映しており、利用数は上昇傾向。

事業実施の背景～住民の声に対応～

上田市では、公共交通利用者の減少や従業員不足による減便という課題に直面し、課題解決に向けて市と鉄道事業者(上田電鉄)が連携して総合的な移動の利便性向上に資するシェアサイクル事業を展開しています。この事業では、上田電鉄の経営する別所線に沿うような形で、駅を中心に市内各地でシェアサイクルポートを設置しています。

以前、放置自転車対策として無料の「まちなかレンタサイクル」を実施していた際、相応の利用者数であったことから、「貸自転車」に一定のニーズがあることが分かりました。対面で貸出する形式だったためコロナ禍で休止しましたが、再開を望む声が貸出窓口に寄せられたことから、令和3年度に市がシェアサイクルの社会実験を主導し実施したのが始まりです。その社会実験を通じてシェアサイクルの公共交通化の可能性が確認され、令和6年度に上田電鉄がシェアサイクル事業を受託することで社会実装に至りました。

現在、鉄道×シェアサイクルによる公共交通の利便性向上や利用促進を目的として、別所線の通勤定期券購入者がお得にシェアサイクルを利用できる「別所線×シェアサイクル 利用促進キャンペーン」を実施中です。

アンケート調査で意見収集～利用者目線でアップデート～

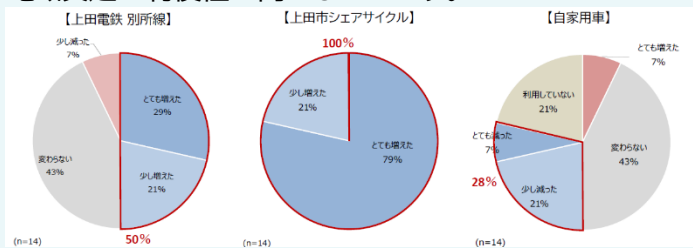
令和7年度にシェアサイクル利用者に対して実施したアンケート調査では、**実際の利用状況や改善要望の収集**を行いました。利用者からは「別所線が出発した直後でも自転車で移動できるため安心感がある」「新幹線との接続が悪い際の代替手段として活用できる」「買い物や郵便局など日常の移動にも役立つ」「健康的な外出ができる」などの声が寄せられました。このことから、シェアサイクルが二次交通手段としてのみならず、**運行頻度が低い公共交通路線があるエリアで代替移動手段としての役割も担うことが可能**とわかりました。

また、ポートや自転車台数の充実、冬季継続などの要望も寄せられており、利用者目線で利便性の高いサービスを提供できるよう、事業の更なるアップデートも日々検討しています。

利用者の声を反映し年々利用が増加！地域交通の利便性が向上

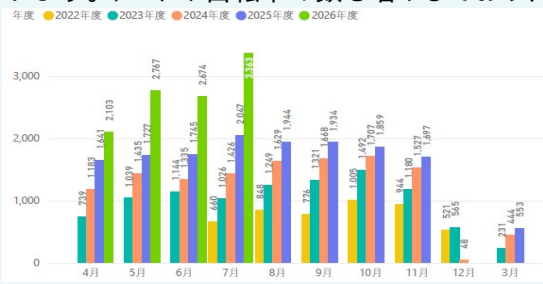
アンケートでは、**別所線やシェアサイクルの利用頻度が増加し、自家用車の利用頻度が減少した**という結果も得られました。また、**外出頻度が増加した利用者が79%**となりました。このように、公共交通の利用促進や外出促進の効果が確認されています。また、シェアサイクルの料金設定についてもアンケートで意見を聴取しており、その結果も踏まえて、**令和8年度から、別所線通勤定期券購入者はシェアサイクル月額基本料金が半額となる「利用促進キャンペーン」の提供**が始まりました。

また、利用者の声を事業に反映するなど、利用促進策を例年打ち出していることで、令和4年度から現在まで、**年々シェアサイクルの利用者数や利用回数が増加**しています。ポートや自転車の数も増やしており、地域交通の利便性が向上しています。



▲移動手段別の利用頻度の変化

出典: 上田市提供



▲利用回数の推移

出典: 上田市提供

【取組の詳細】

上田市 シェアサイクル <https://www.city.ueda.nagano.jp/soshiki/tosikei/46588.html>

令和8年度 別所線×シェアサイクル 利用促進キャンペーン <https://www.city.ueda.nagano.jp/uploaded/attachment/85062.pdf>

■総合交通体系グループだより

▶ 第47回 総合的交通基盤整備連絡会議 の開催

地域の実情に応じた**交通結節点の整備推進**に向けて

開催
日時

2026年**10月27日(火)** 13:00-15:00

開催
方法

オンライン開催【Microsoft Teams】

対象・
定員

地方公共団体の職員

【定員】先着 **500名程度** ※課室単位でお申込ください。

※会議の接続方法は、
申込をされた方に
別途お知らせします

- ◆ 交通結節点の整備は交通利便性の向上だけでなく、地域の賑わい創出にも寄与することが期待される。『交通結節点』というキーワードからは大規模な開発が連想される場面も多いが、産官学で連携しながら地域の実情に応じて多機能・多様な結節点を整備した事例も増えてきている。
- ◆ 本会議では、学識者、自治体、民間企業を講師にお招きしている。学識者からは、政策の潮流や現場の実態を踏まえた結節点整備のあり方について講演いただく。自治体・民間企業からは、それぞれの立場や視点で、取組で直面した課題・解決策や住民・利用者からの評価を交えて先進的な事例の紹介を行っていただく。

<プログラム> ※講演テーマは仮題であり、変更となる場合があります。

■主催者挨拶

■基調講演

講演① **「交通結節点から考える地域交通の再設計－既存施設・空間の活用と地域づくり－**

福島大学 教授 / 前橋工科大学 特任教授 **吉田 樹** 氏

■事例紹介

講演② **「人と交通が交わるまちの拠点－コミュニティプラザえさしの役割－**

北海道 檜山郡 江差町 まちづくり推進課 **阿部 陽** 氏

講演③ **「住宅地における路線バス折返場のコミュニティーハブ化事業について」**

株式会社ブルースタジオ 専務取締役 **大島 芳彦** 氏

■質疑応答

■総評

■事務局より「地域のモビリティ確保の知恵袋2025」紹介

申込
方法

下記 URL よりお申込みください

<https://forms.cloud.microsoft/r/13hwRyVvcQ>



申込
期限

2026年**10月23日(金)**

[定員になり次第終了]

<講演内容>

※講演テーマや内容等は変更となる場合があります。

講演 1

福島大学 経済経営学類 教授
前橋工科大学 学術研究院 特任教授(クロスアポイントメント)

吉田 樹 氏

「交通結節点から考える地域交通の再設計 －既存施設・空間の活用と地域づくり－」

交通結節点の整備は、公共交通の利便性や持続性の向上はもとより、目的地施設と連携することで地域の活性化にも寄与することが期待されます。本講演では、既存の施設や空間を活かした交通結節点の整備と、それに伴う地域交通の再設計について、事例を交えて紹介します。



吉田 樹(よしだ いつき)

首都大学東京助教等を経て、2013年に福島大学経済経営学類へ着任。2023年よりクロスアポイントメントで前橋工科大学にも所属。2024年4月より現職。専門は地域交通政策。各地の公共交通政策に携わり、「現場での実践」に基づく理論構築に努める。

講演 2

北海道 檜山郡 江差町
まちづくり推進課 まちづくり推進係

阿部 陽 氏

「人と交通が交わるまちの拠点 －コミュニティプラザえさしの役割－」

コミュニティプラザえさしを交通拠点に、路線バスとAIオンデマンド交通「江差マース」を組み合わせた地域公共交通の取組を紹介します。異なる交通をつなぐ交通結節点としての機能や、地域の移動・買い物・交流を支える拠点としての役割を通じ、持続可能な地域公共交通の実現に向けた展望を講演します。



阿部 陽(あべ ひかる)

2020年4月に江差町役場入庁。2026年4月より、まちづくり推進課まちづくり推進係に配属。AIオンデマンド交通「江差マース事業」をはじめとする地域公共交通等を担当。

講演 3

(株)ブルースタジオ 一級建築士事務所 専務取締役
武蔵野美術大学建築学科客員教授

大島 芳彦 氏

「住宅地における路線バス折返場の コミュニティーハブ化事業について」

店舗・オフィスなどの事業系建物用途が制限される第一種低層住居専用地域。路線バス折返場の多くがこの「一低層」に存在します。高齢、育児を中心とした社会課題が鬱積する「一低層」でバス事業者が地域住人と共に取り組む地域活性化事業の紹介をします。



大島 芳彦(おおしま よしひこ)

2000年ブルースタジオ一級建築士事務所創業。建築設計を中心にアセットマネジメントの観点から建築・都市の再生・活性化に多角的に取り組む。「リノベーションスクール」2015年日本建築学会教育賞。「北条まちづくりプロジェクト morineki」2022年都市景観大賞(国土交通大臣賞)2024年日本建築学会賞(業績賞)受賞。文化庁国立近現代建築資料館 建築文化フェロー

問合せ

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系担当) 担当: 坂ノ上

E-mail: hqt-soukou01@ki.mlit.go.jp TEL: 03-5253-8111(内線 53-114)

※URL から申込できない方は、こちらの E-mail でも申込受付します。

■総合交通メールマガジンのご案内

▶ 総合交通メールマガジンとは

総合交通メールマガジンは、**交通基盤整備や地域交通に関する最新の取り組み**を幅広く紹介することを目的として発行しているメールマガジンです。主な対象者は、都道府県・市区町村等の交通施策担当者ですが、**どなたでもお申込みいただけます**。

当メールマガジンで紹介する記事は、執筆者が任意の協力ののもとで作成したものであり、成果を広く共有する観点から、二次的利用も可能な形式で掲載しております。

配信をご希望の方は、以下の事項を記載の上、ページ最下段の「お問合せ先」宛てにメールにてご連絡ください。

【配信申込】

以下の事項を記載の上、ページ最下段の「お問合せ先」宛てにメールにてご連絡ください。

（団体の場合）所属、氏名、電話番号、メールアドレス

（個人の場合）所属（職業）、氏名、電話番号、メールアドレス

【バックナンバー】

国土交通省ウェブサイトにて、過去に配信したメールマガジンもご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/seisakutokatsu_soukou_tk_000005.html



▶ 地域の取り組み・イベント案内 募集中！

当メールマガジンに掲載することを目的として、**地域交通の維持・再構築・活性化に向けた取組**を情報提供いただける自治体等を募集しています。当メールマガジンで紹介することで、ノウハウ等の共有を図りたいと考えております。自薦・他薦は問いませんので、「お問合せ先」宛、お気軽にお寄せ下さい。

また、**イベントや勉強会・講演会・セミナー**などにつきましても、当メールマガジンにてご案内させていただきます。主催者の方からでも、耳よりの情報でも構いません。「お問合せ先」宛、是非お寄せください。

▶ 総合交通メールマガジンへのご意見をお寄せ下さい！

本メールマガジンでは、読者の皆様からのご意見・ご要望を踏まえ、内容の充実を図りたいと考えています。誌面の感想、取り上げて欲しいテーマなどがございましたら、「お問合せ先」宛てまでお気軽にご連絡ください。様々な部署の方に楽しんで頂けるよう努めて参ります。

▶ 配信先の変更について

メールマガジンの登録窓口が変更になった行政機関等の方につきましては、配信先のご変更の旨、「お問合せ先」宛てにご連絡ください。

【本メールマガジンに関するお問合せ先（配信申込、配信先変更、ご意見・情報提供 等）】

国土交通省 総合政策局 総務課（総合交通体系担当） 担当：島越・坂ノ上

TEL：03-5253-8111（内線 53-113、53-114）

E-mail：hqt-soukou01@ki.mlit.go.jp ※(at)を@に変えてお送りください

総合交通体系ウェブサイト：<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>



▶ 編集後記

本年度より、島越とともに担当している坂ノ上です！よろしくお願いいたします。

私は地方出身なのですが、車社会で公共交通を使う機会はなかなか無かった地域でした。そんな中、帰省した際に、家の近くのバス停から駅へと向かうコミュニティバスに乗る機会があり、そこでは、高齢の方々が乗っていらして「今日は病院に行く日だ」というような会話をされていました。そのように日常的に使っている方もいれば、私のように帰省の際に使う人や観光客など、地域交通が支えるニーズは多種多様なのだと感じています。それらのニーズに最大限応えつつ、持続可能な運営体制を構築する工夫が全国各地で取組まれていることを、着任して改めて勉強させてもらっています。

こうした取組がより一層、全国各地で進むために少しでも力になりたいという思いをもって、皆様の役に立つ情報を発信できるよう今後とも努めてまいります。

(総合政策局 総務課(総合交通体系担当) 坂ノ上)

【本メールマガジンに関するお問合せ先（配信申込、配信先変更、ご意見・情報提供 等）】

国土交通省 総合政策局 総務課(総合交通体系担当) 担当:島越・坂ノ上

TEL: 03-5253-8111 (内線 53-113、53-114)

E-mail: [hqt-soukou01\(at\)ki.mlit.go.jp](mailto:hqt-soukou01@ki.mlit.go.jp) ※(at)を@に変えてお送りください

総合交通体系ウェブサイト: <http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/index.html>

